2025年6月4日(発行・発売)(年4回刊)第59巻3号通巻235号
ISSN1345-6105

Stereo Sound

特集1=現代ハイエンドスピーカーの[音]
一斉試聴で探る最新19モデルの魅力とその存在意義

特集2=光カートリッジ対応フォノイコライザーの愉悦

2025
SUMMER
No.235

繊細で俊敏で懐深い分解能に驚く。透徹として明るくクリアーな空間表現

高津 修

スピーカーシステム

アウデル

Magika +Plus

¥1,350,000(ペア)

spec

型式：2ウェイ2スピーカー・バスレフ型　**使用ユニット**：ウーファー・14cmコーン型、トゥイーター・2.9cmリング型
クロスオーバー周波数：2.4kHz　**感度**：87dB/2.83V/m　**インピーダンス**：8Ω　**寸法／重量**：W210×H390×D355mm／13.5kg
備考：写真の仕上げはパールウォールナット、他にウォールナットあり。写真の専用スタンド(¥350,000・ペア)は別売
問合せ先：㈱ステラ☎03(3958)9333

AUDEL（アウデル）はイタリア南部、シチリア島のスピーカー工房だ。以前はオーデルと発音し、本誌の221号でフロアースタンディングモデルを紹介したことがあった。

ちょっと調べると、それは2021年暮れのことだから、筆者にしてみればおよそ3年半ぶりのご対面ということになる。今回聴いたのはブックシェルフ型フロアースタンディングシステムのマジカプラス。専用スタンド付きだったが、このスタンドはオプション。別売である。

イタリア産のスピーカーには、エンクロージュアの構造や材質に特別な技術や設計思想を傾注したと思わせるものがすくなくない。たとえばソナス・ファベールやディアパソン、チャリオ、アルベド、などなどである。アウデルもその仲間で、当機のエンクロージュアは輪切りにした合板を積み重ね、トンネル状の箱形に組み上げられている。途中の黒い部分は、HPL（High Pressure Laminate）と呼ばれる独自の高密度素材をつかった振動伝播遮断層である。木材の積層箱はバーチ材。たぶん北欧産の良質なシラカバ合板だ。

このように手の込んだ積層構造のエンクロージュアは、当機の、というよりもアウデルスピーカー全般にみられるもっとも重要な特徴である。ふつうなら、薄手の化粧板か丈夫な塗装膜で覆ってしまう表層面を、合板の切り口むき出しのままワックスポリッシュ仕上げとした外観も、徹底したヒアリングに基づく決断に相違ないだろう。

バーチ積層材を用いたエンクロージュアが同社製スピーカーの大きな特徴。本機ではさらに独自開発のHPL（High Pressure Laminate）材を加えた複合構造とし、素早い振動減衰特性を得ているという。バスレフポートはフロント下部に配置。

スピーカー本体は2ウェイ構成のバスレフ型。織布ふうトリートメントコーンの14cm径ウーファーと、29mm径リングラジエーター型トゥイーターによる一見オーソドックスなユニット構成で、ニュースリリースには同社が得意とする小型ブックシェルフのリファレンスモデルと書かれている。よく見ると、トゥイーターのダイアフラムは中央部分がつぶれた逆ドーム形状になっており、この部分の強度が不足しがちなソフトドームの弱点を大胆率直な手法で補い、高域端のレスポンスと解像力を伸ばそうとしたことが分かる。

いずれにせよ、積層板の断面むき出しのくり抜きエンクロージュアは素朴な手づくり感覚。けれどそこから放たれるマジカプラスのサウンドは、僕らがイメージするレベルのガレージトーンととんでもなく隔たったものである。下手なたとえをするなら、一見なにげないレシピなのに、家庭ではけっして出せないプロの味。イタリア料理のお手本みたいな音なのだ。なにより凄いと思うのは、シンプルなコンパクトスピーカーの利点を根こそぎ掘り起こしたような高S／N感。驚くばかりに繊細で俊敏で懐深い分解能、透徹して明るくクリアーな空間表現は、価格も黙るシチリアのお宝発見というところ。

リアパッフル中央の透明なパネルからはクロスオーバーネットワークに使われる空芯コイルやDuelund製コンデンサーなどが見える。スピーカー端子はシングルワイアリング接続専用。別売の専用スタンドには、前2点と後ろ1点のスパイクで接する。